

自然博物館
ニュース

A·MUSEUM

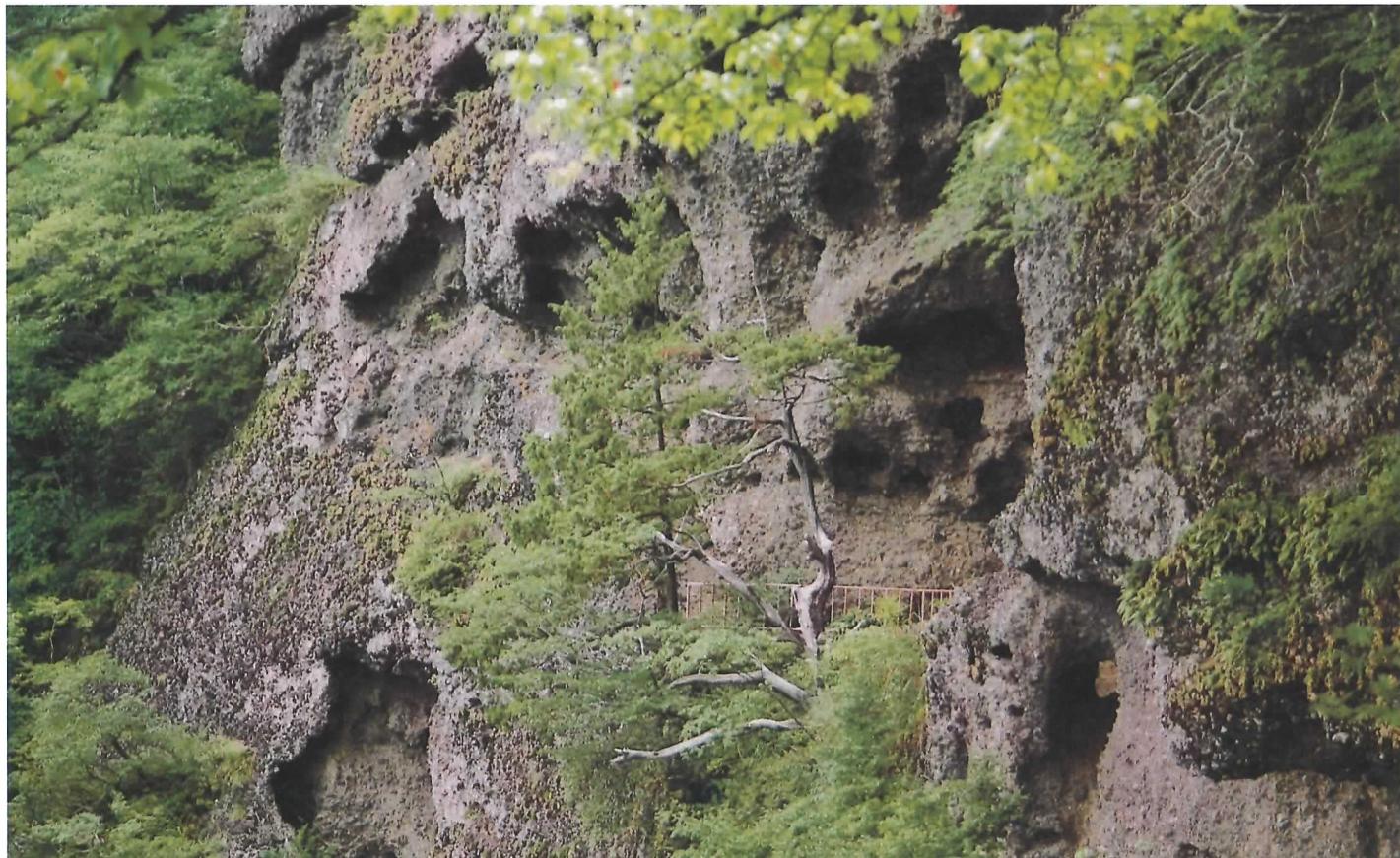
vol.29
〔2001.9.25〕



ア・ミュージアム

ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



穴だらけの籠岩風景

海底火山を語る籠岩の奇景

茨城県北部を南北に流れる久慈川の東側には、急峻な山々が連なっています。その大部分は、黒っぽい角張った溶岩の礫が集まってできた岩石でできています。その大きな角礫が抜け落ちたあとからどんどん風化・浸食されて、崖一面が穴だらけになっていることがあります。

籠岩は、湯沢峠をめぐるハイキングコースの一角にあり、高さ数百メートルもの断崖が長年の風雨によってえぐられて洞穴となっています。はしごを登っていくと、洞窟の中に十六羅漢像が安置されていて、神秘的な雰囲気が漂っています。遠方には、湯沢の源流にある不動の滝を望むことができます。

この角礫が集まってできた岩石は、今から約1,500万年前、まだこの地域が海だった頃に、海底からデイサイト溶岩が噴き出してできた海底火山の一部で、「火山角礫岩」と呼ばれています。この時つくられた海底火山は、今は浸食され、籠岩をはじめ袋田の滝や竜神峡など、風光明媚な景色を造り出しています。

(資料課: 小池 渉)



火山角礫岩の穴の中に続くはしご

見て聞いて 觸れて わくわく ミュージアムパーク

第23回企画展 I.N.M. 第2次総合調査報告

茨城県央地域の自然

ヒヌマイトトンボに吹く風

— 鹿島灘から鶴足山まで100kmを行く —
The 2nd General Research: Nature of Central IBARAKI



涸沼とヒヌマイトトンボ ♀
涸沼は、日本で最後のトンボの新種
発見といわれた「ヒヌマイトトンボ」
の発見地として知られている。



写真左 地質調査のようす 岩瀬町大泉採石場での調査。
写真中 海浜植物「スカシユリ」 海岸の砂浜や崖地に生育する美しいこのユリは、近年乱獲され激減している。
写真右 ストランディングした「アカボウクジラ」 平成13年2月大洋村濁沢海岸にストランディングした体長530cmのアカボウクジラ。



会期 平成13年10月13日（土）～平成14年1月14日（月）
開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休館日 毎週月曜日（ただし12月24日・1月14日は開館し、翌日は休館します）
12月3日～12月11日（館内整理）・12月28日～1月1日（年末年始）
入館料 大人 720円（580円） 高・大学生 440円（300円）
小・中学生 140円（70円）
※（ ）内は20名以上の団体料金です。
※未就学児、65歳以上の方、障害者手帳を持参の方は入館無料です。
※この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。

記念行事

- ・第2次総合調査「茨城県央地域の自然」研究報告会（定員：300名）
10月21日（日）午前10時～午後4時
※事前にお申し込み下さい（先着順）。本書発行時に定員をこえ、又はしめきっている場合にはご了承下さい。
- ・博物館の舞台裏～収蔵庫見学ツアー～（定員：45名）
10月27日（土）・11月10日（土）午後1時30分～午後3時
※実施日の2週間前までにお申し込み下さい。（応募多数の場合には抽選となります。）

主な展示内容

はじめに
調査地域の概要
山地の自然
加波山や鶴足山の植物／山地の土壤動物／鶴足山塊の岩石・鉱物・鉱床など
涸沼の自然
涸沼の鳥類・魚類・昆虫類／涸沼に生息するプランクトン
涸沼周辺で見られる貝化石など
海岸と海の自然
鹿島灘の鳥類・魚類・無セキツイ動物／海浜植物／鹿島灘の海藻類／白亜紀層に見られるアンモナイト類／ストランディングしたクジラ類など
人と自然とのかかわり
笠間焼と石材業／ヒラメの稚苗生産と放流事業など

研究ノート●県北東地域河川の魚類調査

自然博物館の研究活動の1つに、茨城県内各地の地学・植物・動物分野に関する自然資料についての調査があります。これは、茨城県の自然の全体像を把握することを目的としている総合調査です。ここでは、昨年からはじめた茨城県北東部の河川の魚類調査について紹介します。

茨城県の北東部地域は、花園山から堅破山、高鈴山とつながる山々が海岸側と内陸側を隔てています。海岸側には、北茨城市を流れる花園川や大北川、高萩市を流れる花貫川、さらに十王町を流れる十王川などの川があります。内陸側では久慈川の支流の里川が流れています。

いずれの川も大きな岩が見られる上流部から流れの緩やかな下流部まで、様々に様子が変化する川です。これらの川には、県内の貴重な魚類が見られます。ここでは、その1つ大北川の調査について説明します。



大北川下流



下流で採集した魚

昨年の新聞でも紹介されていましたが、大北川には、ホトケドジョウが生息している場所があります。このドジョウは、体長5cmほどの小さなドジョウで「茨城における絶滅のおそれのある野生生物」で希少種に指定されています。ひげが4対あり、そのうち3対が上唇にあります。浮袋が発達しているために、太めでずんぐりとしたからだをしています。流れが緩やかで水のきれいな小川などに生息しています。



ホトケドジョウ

実際に、大北川本流と付近の農業用水を調査して、ホトケドジョウが確認できたのは数ヶ所でした。

ホトケドジョウが確認できた場所で、ヤマトヌマエビも確認できた場所がありましたが、その後の調査では確認することはできませんでした。



採集したヤマトヌマエビの液浸標本

また、河口から3~4kmほどの場所で

は、川岸のヨシの中からオオクチバスの稚魚を数体捕獲しました。こんな所にまで生息していることに驚きました。

さらに、その場所から2kmほど上流では、ウグイやヤマメ、カジカ、アユなどが数多く見られました。同じ地点で冬に行なった調査では、銀化したヤマメを数個体確認することができました。ヤマメと呼ばれる魚は、川で一生を過ごす陸封個体です。銀化した個体は、海に下り、4月から5月の頃に産卵のために遡上してきます。その魚をサクラマスと呼びます。からだの大きさもヤマメの大きなものが30cmほどなのに比べると、倍の大きさで60cmほどに成長します。昨年、今年ともに春の調査を行えなかったので、サクラマスを確認することは次年度の課題です。



夏の調査で採集したヤマメ

また、最も上流には、イワナも生息しているところがあるといわれています。残念ながらこれまでの調査で、実際にイワナを確認することはできませんでした。これもこれから課題です。茨城にもこれらの貴重な魚たちが残る川があります。この環境を今後も残していくたいと思っています。

(教育課：中嶋政明)

小さな発見—ミュージアムコンパニオン●博物館の赤ちゃんカメ

今年の4月12日、生後1週間ほどのミシシッピーアカミミガメが見つかりました。甲らの直径約2.5cm、体重3.9g。ちょうど500円玉くらいの大きさの赤ちゃんカメでした。いま、ディスクバリープレイスの観察コーナーでは、この赤ちゃんカメが日々スクスクと成長を続けています。8月1日現在、甲らの直径約4cm、体重は倍以上の10gに達しました。カメを裏返すと見えるお腹の模様が成長と共に変化していく様子もよく分か

ります（写真参照）。赤ちゃんカメの世話は、私たちミュージアムコンパニオンと大洗水族館職員が交代で行っています。餌をあげたり、日光浴に連れ出したり、1ヶ月に2回身体測定も行います。最近は赤ちゃんカメも人に慣れたようで、顔を出してこちらの様子をじっと見ています。皆さんも来館された時、水草の中から顔だけ出したかわいい赤ちゃんカメを探してみて下さい。

（ミュージアムコンパニオン：宇佐見由香子）



博物館でスクスクと育つ赤ちゃんカメ

展示品紹介●じっくり見ましょう第3展示室—土の中の生き物



第3展示室の「土の中の生き物」のコーナーでは、土の中に生活するさまざまな生物を100倍に拡大した模型で紹介しています。まず、入ってビックリするのは床にある実際の大きさを100倍にした1円玉だと思います。大きさを比べるためにこの1円玉がとても重要になります。大きさを比べることで実際の生き物の大きさが実感できると思います。比べてみると、土の中の生き物はほとんどが小さいものばかりですが、ちょっとだけ大きいものもいます。皆さんがあまり見ることのない土の中にも、たくさんの生き物が生きていることを実感していただければと思います。

博物館に展示してある土の中の生き物は、とてもかわいい形をしています。その中でも代表的な展示物を紹介します。



アカツノカニムシ

カニムシ類は、名前のようにカニのような一対のはさみをもち、これでトビムシなどを捕らえて食べます。



ニホンヒメフナムシ

ダンゴムシと同じ仲間ですが尾肢（びし）が長く後に伸びているのが特徴です。湿った森林に多く、落ち葉を食べる代表的な土壤動物です。



フトミミズの一種

落ち葉を食べながら土の中を動きまわり丸い粒状の糞を出します。



トビイロケアリ

平地から2000m以上の高地まで分布します。土の中や立ち枯れた木に巣を作り、行列の通路を木くずや土でおおったあり道を作ります。アブラムシなどが出す甘い蜜を好みます。

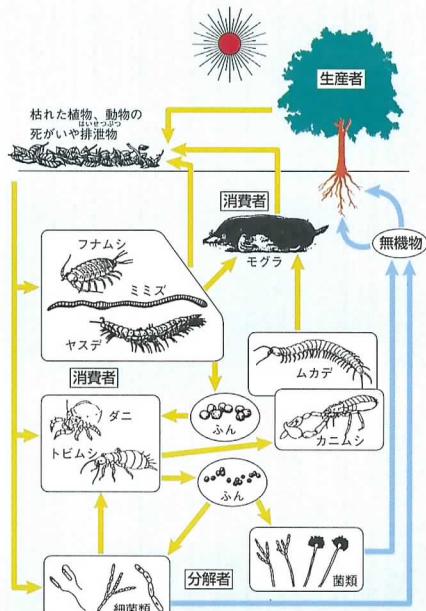
次に、もう少し詳しく土の中の生き物のはたらきについて考えてみましょう。

土の中の生き物や菌類、細菌類などは、落ち葉や動物の糞・死骸などの有機物を細かくしたり、無機物に分解したりするはたらきをしています。このようなはたらきをする生物を分解者と呼んでいます。

分解者によって作られた無機物は、生産者である植物に養分として吸収され、再び有機物になり、消費者である動物たちの栄養になります。

このような魅力ある土の中の生き物をじっくりと見てください。

(資料課：湯本勝洋)



自然界における土壤動物のはたらき

野外だより●花の谷・ハマギク

本館を出て野外へと向かい、花木の広場を過ぎると、そこはとんぼの池までと続く“花の谷”。季節ごとにさまざまな花を咲かせます。

秋の花の谷を彩るハマギク（浜菊）はその名の通り、海岸に生えるわが国固有のキク科の多年草で、茎は冬になってしま枯れることなく生き続け、つぎの春に地下茎から芽を出し生長します。高さは1mほどになり直径7cm位の白い花を咲かせます。

東に海岸線をもつ茨城県とハマギクとの関係は深く、学名の命名者は本県出身で日本を代表する植物学者となった松村任三氏。太平洋側の岩場にのみ生育し、ひたちなか市が生育地の南限です。茨城県版のレッドデータブックでは希少種となっています。

暑い夏が過ぎ、華やかさがうせた海辺。静かな日常の景色の中で咲くハマギクの白い花には、何かほっとさせられるやしさを感じます。（教育課：根本 智）



海岸に咲くハマギク

(撮影：大津昭治氏)

歳時記●食欲の秋

秋が深まっていきます。日差しが日増しに短くなっていく中、食べに食べて、体脂肪を蓄積している動物がいます。冬眠をして冬を乗り切る生活戦略をもつ動物たちです。

ツキノワグマも冬眠する動物です。正確には、リスやヤマネのような「冬眠(hibernation)」ではなく、「穴籠もり(denning)」だという指摘もありますが、代謝が下がり、食べず、飲まず、排泄せずという状態で過ごしますので、ここでは冬眠とします。

広葉樹林に生活するクマにとって、秋にもっとも効率よく摂食が期待でき、また栄養価の高い食物として、ブナやナラ類の堅果をあげることができます。完全に落葉の終わった林を遠望すると、鳥の巣のようなぼさぼさとしたかたまりを樹上に見ることができますが、これはクマが木に登って堅果を食べた跡です。「クマ棚」とか「クマ敷き」などと呼ばれます。

しかしこうした堅果の結実量には、年によって大きな変動があることが確かめられています。凶作の年には、クマたちは冬眠のための十分な脂肪を蓄積できないかも知れません。クマたちはどうするのでしょうか？興味深いメカニズムがひとつあります。メスマグマは初夏にオスと交尾し、体内に受精卵を持ちますが、その受精卵は直ちには子宮に着床しません（着床遅延）。メスマグマが秋に十分な脂肪を蓄積でき、冬眠中の出産の準備が整って初めて着床を行います。もし逆に、秋に十分な食べ物が得られない場合は、受精卵を流して出産をあきらめ、母体の維持につとめるのです。

最近、ぽつぽつですが、茨城県内でクマらしい動物の目撃報告があります。1700年代の記録を最後に、県内から姿を消したツキノワグマですが、また姿を現したのでしょうか。しかし、茨城県の山に堅果のみの広葉樹林は少なく、また冬眠のための樹洞を持つ大径木も多くはないことを考えると、クマたちの行く手は険しいようと思えてなりません。

（教育課：山崎晃司）



ツキノワグマの越冬場所
(モミの樹洞：東京都奥多摩町)



ツキノワグマの越冬穴の内部
(根上がり穴：山梨県小菅村)
ヒノキの葉とススキが敷き込まれている

収蔵品紹介●佐藤正己コレクション

皆さん、地衣類を知っていますか？地衣類とは、菌類と藻類とが共生している植物群のことです。古い樹木や墓石などにびっしりとコケのようなものがくっついているのを見たことはないでしょうか。

当館の植物収蔵庫には、佐藤正己氏が収集した地衣類コレクション約2万点が収蔵されています。佐藤氏は、昭和29年から茨城大学で教授として勤めた方です。日本の地衣類分類の第一人者であり、日本産地衣類目録の編さんも手がけています。

そのコレクションのうちの約1万5千点が日本国内のもので、採集地は日本全国におよびます。地衣類のこれだけ大きなコレクションは、大変貴重なものです。また、地衣類の発生は大気汚染や空気中の水分など環境の変化に左右されるうえ、それ自身の発生能力も低いため、過去と現在の環境を比べるときの大切な資



古木にびっしりとついた地衣類

料にもなるのです。

地衣類の同定は大変難しく、見た目がよく似ていても別種であったり、その逆に見た目が違っているように見えても同じ種であったりすることさえあります。それらの標本を、平成11年度から当館

学芸嘱託員の中島明男氏が整理・同定をすすめています。同定作業は外見からだけではなく、約10種類の試薬を使い、その色の変化から植物体内に含まれる化学成分の違いで種名を決めています。

この同定作業の成果は、佐藤正己地衣類コレクションとして、近々目録の形で公開する予定です。乞うご期待。

（資料課：太田俊彦）



ハナゴケ
(撮影：中山静郎氏)

館職員レポート◎北米アウトリーチ調査報告番外編
滝本 秀夫（教育課・地学研究室）

昨年夏、（財）日本科学協会の援助で北米の博物館のアウトリーチ事業（館外での活動）の調査をしてきました。正式な報告は当館の研究報告第4号に掲載されていますが、ここではその調査に際してのエピソードなどを報告したいと思います。

NHM：ロサンゼルス郡立自然史博物館（ロサンゼルス）

CAS：カリフォルニア科学アカデミー（サンフランシスコ）

FM：フィールド博物館（シカゴ）

サンフランシスコ名物のケーブルカーは実用的ではないけれど、今も人気者



1 北米の博物館の優れ物たち

その1 ミニジオラマ

NHMやFMでは貸出資料の中にミニジオラマが多く見られました。生態的内容まで視覚的にとらえられるという点では優れ物だなと感じました。

その2 オリジナルグッズ入りバックパック



CASで行われた子どもたち向けのサマープログラムで配られていたものです。バックパックの中にはフィールドノート、鉛筆、色絵筆、帽子などが入っています。これらのグッズはプログラム終了後も子どもたちの宝物になることでしょう。

その3 フルサイズパン



北米では空港からダウンタウンのホテルまで乗り合いで旅行者たちを運ぶこのサイズのパンを多く見かけます。私も今回の調査ではよく利用しました。子どもたちであれば10人とその荷物くらいは楽に運べてしまいます。博物館の野外活動ではこのパンが大活躍していました。前の白いパンはCASのもの、後ろの赤いのはYMCAのものを借りて使っていました。

その4 野外用顕微鏡

野外用の生物顕微鏡でステージの下にある光ケーブルの束が自然の光を集めてくれます。

2 今もわき出すタールの罠



タールピットとサーベルタイガで有名なペイジ博物館のあるハンコック公園で撮影した写真です。全体的に黒いのは全て地面からわき出したタールの色です。中央部には浮いてきたガスによるアワが写っていますが、おわかりですか？

3 シカゴの人気者スーザン



オークションの際、たいへんな高額で競り落とされ有名になったティラノサウルスのスーがFMのメインホールに展示されました。たいへんな人気で、開館前に人が並ぶため開館時間を早めていました。また、スー専門のショップもオープンしていてスーグッズが飛びように売っていました。

4 メガネの部屋からの風景



当館に交流事業で来ていたNHMのメガネの部屋から見た風景です。円屋根部分はロツンダと呼ばれるホールで、私の滞在中は映画の撮影に使われていました。右後方の時計台はUSC（南カリフォルニア大学）の建物です。

コラム by director NAKAGAWA ◎シンボルマーク

当館のボランティアのシンボルマークが、5月27日のボランティア総会でお披露目されました。友の会シンボルマークに続いて颯爽の登場です。

ボランティア内部検討会の原案をもとに当館シンボルマークのデザイナーでもある小島先生がボランティアの心意気を盛り込んで練り上げたものです。地色のグリーンは当館の基本色、楕円形の青は菅生沼と蒼穹を示し、真中の白い開翼形は当館の象徴としての白鳥が未来に羽ばたく姿をイメージしています。

たく姿をイメージしています。

そして、白鳥の飛翔を支える白いV字形のヒト形こそ、両手を精一杯に広げ、博物館活動を全面的にサポートしようとする Volunteer の V なのです。

ボランティアの V は Vital (活力に満ちた) の V、そしてまた Victory (勝利) の V にも通じ、常時、活力に満ちた活動を展開している当館ボランティアに実際にふさわしいマークになったと思いま



イラスト：瀬楽かおるさん

トピックス●6~8月

サイエンスデー○6月5日(土)

「環境の日」を記念して設けられた「サイエンスデー 地球・科学の日」では、「企画展クイズ」や「博物館とておき話」を開催。当日は遠足で来館していた児童・生徒たちが多数参加し、博物館の展示などを通じて、環境への関心をもつてもらう機会となりました。



企画展クイズのヒントはあるかな~?

海の日○7月20日(金)~22日(日)

海の日を記念して、「レクチャー&工作教室 クジラの仲間を知ろう~ペーパークラフトでオルカづくり」、「海の日クイズ大会」、「タッチングプール 海の生き物にふれてみよう」、「アクアワールド茨城県大洗水族館紹介コーナー」などのイベントを開催。なかでも、来春3月21日に新しく生れかわりオープンとなる大洗水族館は、その内容、建物の大きさ(約2.5倍)ともに今まで以上になるということで、多くの方々が興味深く模型や展示パネルをみていました。



新しくなる大洗水族館に興味津々!!

水系だより

皆さんは“流れ藻”というものをご存知でしょうか。海藻が波の影響などで切れて海面を漂っている状態をいいます。多くは、ホンダワラという海藻ですが、複雑に入り組んだ藻の中には、小魚やカニの幼生・稚ガニ、その他多くの生物たちの隠れ家として有効に利用されています。博物館の第3展示室、海の水槽ではそういった生物の暮らしをお見せしようと開館当初から“流れ藻ケース”を設置して展示しています。

「博物館紹介紙芝居」表彰式○8月11日(土)

茨城県自然博物館友の会が公募した「茨城県自然博物館を紹介する紙芝居」の表彰式が行われました。今後、紙芝居は、友の会より博物館に寄贈され、イベントなどで皆さんに紹介していく予定です。小さな子供たちにもわかりやすく博物館を紹介しています。ぜひご利用下さい。

【受賞者・作品】 (敬称略)

- 大賞 石山 美佐 「茨城県自然博物館へGO!」
- 優秀賞 石井 文子 「まんもすファミリー・はくぶつかんへいく」
- 岡部 慧子 「自然博へようこそ」
- 佳作 新井 久子 「四角い入場券をわたすと児童造形アトリエ」「不思議いっぱい博物館」
- 高山 澄子 「しぜんのちから」
- 瀬楽かおる 「たっくんのゆめ」



友の会会長より受賞者に賞状と副賞が贈されました

SATOYAMA展をふりかえって

7月7日(土)から9月24日(月)まで開催されたSATOYAMA展は、会場の中で、タガメの卵から幼虫が生まれたり、カブトムシが卵を産み付けたりするなど、会期とともに会場も変化した企画展でした。また、里山というフィールドで活動する県内の団体や、テレビの人気番組「ザ!鉄腕!DASH!!!」から「DASH村」を紹介したほか、企画展記念イベントである自然講座「人と自然のコミュニケーションスペース “里山”」、里山シンポ「森は海・川を元気にする」、自然観察会「里山を歩こう」などを通じて、里山の自然だけでなく、現在の里山をとりまく状況や里山の将来にまでふれることができました。

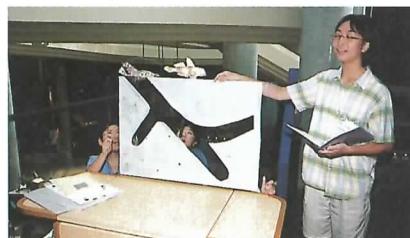


7月7日「DASH村」より清隼一郎さん来館

ジュニアスタッフ中間発表会○8月11日(土)

今年5月から研修が始まった「ジュニアスタッフ」。現在のところ中学1年生から高校3年生まで44名がジュニアスタッフとして活動しています。それぞれが決めた課題のもと、解説キットを作成し、このほどその中間発表を行いました。

今後は今回の発表での反省点などを改善し、来館者へのガイド実践にむけて、研修を重ねていきます。



ジュニアスタッフが今までの研修成果を発表

ケースの中には、今年4月~6月にかけて月に1度、大洗沖を流れる藻を自家採集し、その中にいたモジャコ(ブリの幼魚)、メバル、イシダイ、カワハギなど約10種類を展示しています。

流れ藻ケースの外側には、大きめのカンパチが泳いでいますが、時折中の魚を狙ってケースに突進すると、瞬く間に藻の中に隠れる小魚の様子が観察できます。

(大洗水族館:金高卓二)



魚たちのゆりかご「流れ藻」

インフォメーション（10~12月の行事）

自然観察会（各40名）

- 10月14日（日）
『秋の筑波山を歩こう（筑波山）』
- ▲11月17日（土）
『しし座流星群と真っ白な天の川（里美村・夜間）』
- 12月23日（日）
『鳥の古巣を探そう（菅生沼上沼）』
- *現地集合。（対象：小学生以上、ただし▲は小学4年生以上、いずれも保護者同伴）

自然講座（定員：300名）

- 11月4日（日）13:00~15:00
『博物館で学ぶ最新恐竜学』
- 11月25日（日）13:00~15:30
『土の中の不思議な生きものたち』
(対象：小学生以上)
- 自然教室（定員：40名）
11月10日（土）10:00~12:00
『土のひみつを探ろう！～土壤を使

自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

相談方法 直接ご来館ください。（または郵送・eメールでも受け付けています。）

相談日 每月第2日曜日（但し12月は除く）
場所 ディスカバリー・プレイス観察コーナー^{時 間} 13:30~15:00

その他のイベント

・第3回ネイチャーウォークラリー大会

10月28日（日）8:30~15:00

往復ハガキに、参加人数、コース【A：ファミリーコース（6KM）、B：ラグラグコース（3KM）、代表者の氏名（ふりがな）、年齢、住所、電話番号、参加者全員の氏名、年齢をご記入のうえお申し込み下さい。（10月13日（土）必着）詳細は博物館までお問い合わせ下さい。】

・アミューズデー（開館記念日）11月4日（日）特別イベント開催
・サイエンスデー（無料入館日）11月13日（火）特別イベント開催

【交通案内】



えいが会（定員：300名）

[3階映像ホール]

- 10月7日（日）『グスクドリの伝記』
 - 11月3日（土）『センス・オブ・ワンダー』
*特別上映（大人向け）
 - 11月18日（日）『ダイナソー』
- 上映時間 14:00~
入場無料（当日9:30~整理券配布）

○平成13年12月3日（月）から12月11日（火）までの9日間までは、館内整理のため臨時休館となります。

■小・中・高校生無料入館

■休館日

○サイエンスデー（無料入館日）

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3			
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1					
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

ご利用案内

[入館料]

区分	本館・野外施設		野外施設のみ
	企画展開催時	通常時	
大人	720円（580円）	520円（420円）	200円（100円）
高校・大学生	440円（300円）	320円（200円）	100円（50円）
小・中学生	140円（70円）	100円（50円）	50円（30円）

（注）（ ）内は団体料金（20人以上）

未就学児・65歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。

つぎの日の入館料は無料です。（▲印は高校生以下）

●4月29日（みどりの日） ●6月5日（環境の日）

●11月13日（茨城県民の日） ●春分の日

▲高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。（但し、春・夏・冬休み期間中を除く）

[休館日]

●毎週月曜日（但し、10月8日（月）、12月24日（月）は開館し、翌日休館となります）

●年末年始12月28日～1月1日●館内整理12月3日～12月11日

気がつきましたか。そのマークとは

（ソイシール）です。

これは環境にやさしい「大豆油インク」をつかっていることを表示するマークで

す。茨城県自然博物館では、今後も環境に配慮した取り組みを進めて行きたいと考えています。

（T・K）

[編集後記]

ア・ミュージアムをご覧の皆さん、前号からインフォメーションを掲載したこのページに、あるマークが加わったのに

企画・編集：ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課／発行2001年9月25日

〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000

ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

E-mail webmaster@nat.pref.ibaraki.jp